

Principal Correspondence

「日本の教育は全人教育？」

京都大学の先生方が書いた「日本の教育はダメじゃない(ちくま新書, 小松光/ジェルミー・ラプリー著)」という本に、日本の大学生は勉強しないが、大人になったときの平均学力はトップレベル(というか世界一位!)という記載がありました。

OECD(簡単に言えば先進国クラブ)の調査の結果です。先進国では日本の大学生の勉強時間は最下位に近いのですが著者は日本の大学生はアルバイトを通じて社会の一側面をみたり、部活動やサークル活動で大人たちのやっている仕事上のプロジェクトの予行のようなことをやったりしているからといいます。



私はその意見に賛成ですが、さらに私は日本の教育はしっかりした初等教育に支えられているからだと思います。土台がしっかりしているのです。

小学校ではいわゆる「班活動」があります(当校で言えば児童会, ハウス活動, 委員会活動, クラブ活動, 行事の班プロジェクト活動等々を盛んにやっております)。「班活動」など、古臭いと思われがちですが、これが 21 世紀を生きる上で重要な応用力を養うのに役立っているのです。

日本の初等教育の特徴に「体育」と「給食」があります。

日本の体育は平均週 3 時間以上。週に 1 時間もない米国とニュージーランドは平均能力ワースト 1, 2 位(映画で高校生が良く運動をしていますがあれはクラブ活動)。さらにヨーロッパでは体育は地域のスポーツクラブが担っています。そもそも学校は「勉強するところ」という国が多く体育などは、ほとんどおまけの授業で、力を入れていません。

そこへ行くと日本はしっかり時間を確保し、当校では、春(運動会)秋(マラソン大会)冬(ドッジボール&縄跳び大会)と大きな行事を催し、目標を持たせ、力を入れて体づくりを行っています。この時期に築いた元気な体は一生の宝です。

さらに「給食」は海外には少ない独特な制度で、栄養とバランスが取れた食事が子どもたちの健康に寄与しています。

日本において学校は子どもの生活の大部分を占める全人的な教育をしているのですね。秋は実りの季節。勉強に運動に、ハウスや児童会活動に、さらには演劇に頑張ってもらいましょう。



Principal Correspondence

「好かれる子は幸せな人生をおくる？」

フランスのアルガンとカユックの二人の学者が面白い研究をしています。彼らが言うには「他人に親切にする」という躰を受けて育った子どもは、そうでない子どもより大人になって平均30万円年収が高いと言うのです。

身もふたもない話ですが人生は大まかにギブ&テイク(GIVE AND TAKE)です。人に親切にすれば、たとえ相手からその親切の見返りがなくとも、その人柄は人望になり、思わぬところで周りが助けてくれたり、認めてくれたりする割合が高いのです。

「たとえ短期的に損をしても、他の人に正直に親切にした方が、トータルでその人が得るものが大きい。」ということは宗教の言葉のようですが、科学的に、心理学で証明されています。

同じく、クラスでみんなに好かれる子と、あまりそうでない子を見ると(それは性格ではなく)親の子どもへの接し方が反映していること。教師の間では常識です。

親が世間を斜めに見て馬鹿にしたような態度を取ったり、言ったり、上から目線で威圧的に子どもに接する家庭では、子どもは学校で同じようなふるまいをしがちで、嫌われるものになります。一方、笑顔で子どもを受け入れ、謙虚で親切な姿を見せる家庭の子は、その振る舞いゆえに人気者で、さらに年を重ねると人望までついてくる様になります。

子どもの生涯の幸せのためにも幼少期のこうした育ちは大事です。この時期の成長はやり直しの効かない宝物なのです。

